

特別支援教室の便利

11月号

杉並区立高井戸第四小学校

特別支援教室拠点校

たかし教室直通03-5336-9522

長らく厳しい残暑が続いていましたが、いつの間にか急速に秋の気配が濃くなってきました。各校では、運動会、学芸会、音楽会、移動教室などいろいろな行事が行われています。「楽しかった」「うまくいった」「頑張った」などの他、「大変だった」「ちょっと嫌だった」「つらかったけど、何とか乗り越えた」など、子供たちは一人一人様々な思いや感じ方をしていることなのでしょう。そのことを、私たち大人に話すこともあります。この一つ一つの思い、感じ方、全てを否定することなく聞いてあげてください。共感することが子供たちのコミュニケーションへの意欲や力を伸ばしていくこともあります。



「スピーチ」の時間

高四小エリア特別支援教室では、グループ学習「みんなの時間」のときに「スピーチ」の時間を設けています。子供たちが一人一人、自分が楽しかったこと、楽しみにしていること、はまっているもの、習い事のこと、気になっていることなど、自分のことについてみんなの前でお話をして発表するものです。

そのスピーチに対して、聞いている人たちから質問を受け、その受け答えをしていきます。

スピーチは、一般に「伝えたいことをわかりやすく組み立てて話す」ことが大きなねらいとなり、話し方のパターン「話型」を身に付けることも重要視されることがあります。高四小エリア特別支援教室では、このようなスキルの学習への取り組みの他に、

自分のことを表現する → そのことに反応したり受け止めたりしてくれる人がある

ことで、

コミュニケーションへの意欲や楽しさ

自分を受け入れてくれることでの自己肯定感の育ち

ということをねらい、大切にしています。

子供は、失敗経験や叱られ経験があまりに多すぎると、コミュニケーションに対して消極的になったり、意欲を失ったりしやすくなります。だからこそ、子供たちにとって、自分が表現したことについて、「聞いてくれる人がある」「受け入れられている」「認められる」経験を大切にすることで、コミュニケーションへの意欲を育てることができます。

子供たちから「誰かに伝えたい！」という気持ちを引き出しながら、子供たちのコミュニケーションへの指導や支援に取り組んでいます。

日曜日に
わたしは、
...



(裏面へ)

◎小集団学習「みんなの時間」

「ペットボトルキャップを使って活動しよう」

- 手先を積極的に動かすことができる。
- 注意力、集中力を身に付けることができる。
- 友達と協力してルールを守って活動できる。

「ルールのあるカードゲームを通してコミュニケーションを深める」

- コミュニケーションを深めるためには決められたルールを守ることが大切なことを理解できる。
- 相手の表情や動きを見て、その人の状況や感情を読み解き、自己の行動を調整できる。
- ルールのある活動に取り組むことを通して、友達との関わりを楽しむことができる。

「図形伝達」

- 図形を正しく伝達し、相手に分かりやすく伝えることで、相手の視点に立つことができる。
- 友達と上手に話し合いを行い、答えをまとめることができる。
- コミュニケーションを取りながら活動を楽しむことができる。

「頭の中で数字を操作しよう」

- 前の人が言った数字を記憶にとどめ、その後数を足したり引いたりして操作することができる。
- ルールを守って活動することができる。
- 友達とコミュニケーションを取りながら、勝ち負けに固執しすぎず取り組める。

